

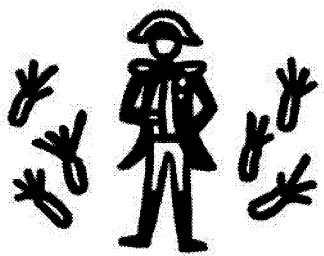
がん社会 を診る

中川 恵一

徳川家康や武田信玄などの戦国武将も胃がんで亡くなったといわれますが、フランスの英雄ナポレオン・ボナパルトの死因も胃がん説が有力です。

胃がんは最近まで人類のがんのトップでした。たとえば日本でも私が生まれた1960年(昭和35年)の男性がんと死亡の半分以上が胃がんでした。しかし今、胃がんは減っています。年齢構成を考慮した胃がんによる10万人あたりの死亡数(年齢調整がん死亡率)はこの10年で3割減で、今年初めて、罹患(りかん)数のトップが大腸がんになる見通しです。冷蔵庫の普及など、衛生状態がよくなり、胃がんの原因となるヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)の感染が減っていることが原因です。

米国では胃がんは、白血病や膀胱(すいぞう)がんより



イラスト・中村 久美

団塊は「胃がん世代」

少ない希少がんです。40年代にはかつての日本同様、がんのトップでした。日本より30年も早く冷蔵庫が普及して劇的に減ったのです。

ヘリコバクターのヘリコはヘリコプターのヘリコと同じで、らせん形を意味します。バクターは細菌を、ピロリはこの細菌がよく見つかる胃の出口である幽門部をさします。つまり、幽門にすむらせん形の細菌という意味です。ピロリ菌は、不衛生な飲み水や食べ物などから感染し、胃の粘膜にすみ着きます。このピロリ菌の感染が、胃粘膜に慢性の炎症を引き起こし、胃潰瘍や十二指腸潰瘍、さらに胃がんの原因になります。

胃液は、金属も溶かすほどの強酸性ですからふつうの細菌は生きられません。しかし、ピロリ菌が出すウレアーゼという酵素は、胃の中の尿素からアンモニアを作ります。このアンモニアが胃酸を中和し、ピロリ菌は胃の中で生きていけます。ピロリ菌による炎症が胃潰瘍や胃がんにつながるわけです。ほとんどの胃がん患者はピロリ菌に感染しています。家康もナポレオンも、ピロリ菌に感染していたに違いありません。

ピロリ菌感染は日本最大の感染症です。人口の半数の約6000万人が感染しているとされ、60歳以上では70〜80%が感染しているとみられています。この世代は、衛生環境が悪い時代に乳幼児期を過ごしたため、団塊世代は「胃がん世代」といえます。

(東京大学病院准教授)